

2E01 品質データのトレーサビリティ

プレゼン：3月10日 B会場 15:00～ IoTによる生産の見える化と連携

対象業務の現状と取組み

品質データのトレーサビリティと繋がる仕組みで、不具合対応効率化&品質/性能向上

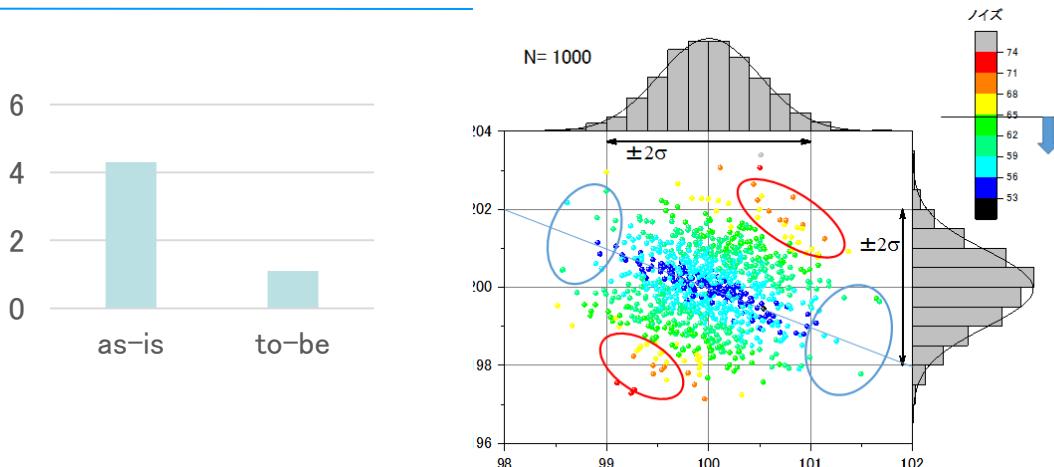
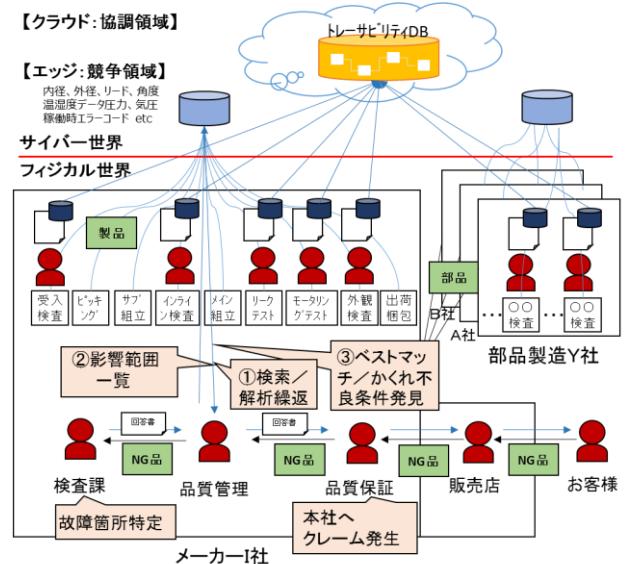
製品を利用頂いているお客様や市場から、不具合の問い合わせがあった場合、これまでは部品や作業工程の品質情報を一つひとつ遡って原因究明しなければならない為、手間と時間を要していました。こうした課題を解決するには品質データのトレーサビリティの活用が有効な手段となります。

- ①突然発生する不具合(問合せ)に対し、IoT活用した仕組み構築で、適切・迅速に対処、お客様の満足度向上と業務効率化を実現します。
- ②さらに、複数の部品の品質データ(寸法等)の組合せ(マッチング)により品質/性能を向上させる関係・相関をデータ分析により割出し。そのデータを元にした部品のキッティング(組合せ)を行なうことにより、製品の品質アップと部品使用の効率化(コスト低減)を両立させます。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

実証実験(机上)において、部品の「品質データのトレーサビリティ」と製品構成や作業工程、品質情報を紐付けして繋がる仕組み(品質データ共有PF)を構築、効果検証を行ないました。従来の管理方法に比べ、

- ①不具合対応の効率化が見込める結果を確認。
- ②データ分析に基づく、部品のベストマッチにより製品ユニットの品質/性能アップが図れるシミュレーションを行い、仕組みとしての活用イメージを提案。



新川 桜田
富士通トランスエンジニアリング 大竹

